

塩竈市長期総合計画シンポジウム会議録

1. 開 会

2. 市長あいさつ

(塩竈市長 佐藤 昭)

ご苦労様でございます。紹介いただきました塩竈市長です。3連休の大切な初日に貴重なお時間を頂きまして、長期総合計画シンポジウムを開催させていただいたところ、このように大勢の皆様方にご参加をいただきまして心から感謝を申し上げます。

本市におきましては、現在、第4次長期総合計画に則りまして様々な行政課題の解決にあたっております。平成22年が最終年度となります。23年度から10カ年の新しい計画を策定することになっております。これまで市民意向調査や、東・西・南・北さらには浦戸地区での地域懇談会、市民の皆様のご意見を沢山伺いました。

また、市民懇談会では5つの部会を組織し多くの皆様方にボランティアで約半年間、市民の目線でのこのまちの課題について、しっかりした議論をいただき、この2月に提言書を頂戴しました。これらを踏まえて現在、塩竈の10年後の目指すべき将来の姿、またそれを実現するための手立てにつつまして熱心な議論が重ねられているところであります。

我々、町内会などにお邪魔してこの塩竈の10年後のあるべき姿をぜひ皆様方から、というお話をさせていただきますと、かなりの方から「10年後私はいません。そんな先の話をして」という事を言われますが、そういった時にはこのような話をさせていただきます。「10年後の目標であります。しかしながらその目標を達成するためには実は1年1年の積み重ね、もしかしたら1ヶ月1ヶ月、さらには1日1日の積み重ねの結果が10年後の姿です。ですから我々が毎日暮らしています1日1日を大切にしながら、この塩竈のあるべき姿をしっかりと議論を重ねていく事こそが、すばらしい塩竈のまちづくりを実現できるということでございます」という話をさせていただいております。

今、残念ながら大変厳しい経済社会の環境であります。しかしながら、そういった時代である今こそ我々がしっかりとこのまちのあるべき姿を考えていくことこそが何よりも大切だと考えております。

本日は、長期総合計画審議会会長であります大滝先生、そして副会長であります宮城大学の宮原先生、東北学院大学の斎藤先生、そして塩釜商工会議所塩釜地域資源活性化推進委員であります三浦さんによりまして、「地域資源を活かしたまちづくり」のパネルディスカッションをさせていただきます。パネリストの皆様方には本当に大変お忙しい中、快くご協力をいただきましてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

また、このパネルディスカッションに先立ちましてこの後、表彰式を行わせて頂きます。「私の描くまちの未来」をテーマとした絵画募集を小・中学生の皆さんに応募いただき、塩竈の未来、夢のあるまちを描いていただきました。本当に感謝を申し上げます。

最後になりましたが、本日のシンポジウムで、このまちの、今、足元に埋もれているすばらしい財産を市民の総力でしっかりと磨き上げ、次の世代にこの塩竈こそが我々の暮らすまちだということでバトンタッチができますように長期総合計画を皆様方と共にしっかりと策定させていただきます事を約束させていただきます。

ぜひ本日のこのシンポジウムは新しいまちづくりのスタートであります。活発なご意見、審議を賜りますよう心よりお願いを申し上げます。開会の御礼のあいさつとさせていただきます。本日は本当にありがとうございます。

3. 表彰式

4. シンポジウム

・パネリスト紹介

・パネルディスカッション

(コーディネーター 大滝精一)

正面のスクリーンをご覧ください。長期総合計画とはどのようなものか、これはどのまちでもそうですが、長期総合計画というものは、言わばまちの設計図の様なものにあたります。10年先に塩竈のまちをどうしたらいいのか、どうありたいのかという姿、目標を描きながら、実現していくためには、どのような方法、手段、政策というものを作ってそれを具体的にどんな風実践、実行していくのか。その全体を10年間かけて描いているもの。それが一言で言えば長期総合計画というものにあたるわけですが、その中身は下に書いていますように10年間の目標設定する基本構想と呼ばれているもの、それからその基本構想を説明していく為の大きな柱にあたるような基本的な計画、指針にあたるもの、更には具体的な実施の方法にあたる実施計画この3つの部分から構成されています。

現在、私たちが今検討している段階は一番上の部分、基本構想という、どういう目標というものを設定して掲げて10年後の塩竈の姿を描いていくのか。そこの所を中心に計画を策定していて、順次この後、基本計画、実施計画という形で具体化していくという段階にあります。こういった長期総合計画が出来るまでには、いろいろな段階、ステップを通してこれから完成に向けて順次進めていく事になると思います。

先ほど市長さんからお話があったように、一番左上の所にありますよう、すでに市民懇談会というものを開催しております。この市民懇談会は全部で5つの分科会というものになっております。「活力づくり」「うるおいづくり」「ふくしづくり」「ひとづくり」「みらいづくり」といったようなそれぞれの分科会に分かれています。「みらいづくり」の分科会においては、高校生の皆さんに参加していただきながら、若い視点から見て、これからの塩竈をどう考えていったらいいかなど検討しています。

一つひとつ詳しく紹介することは出来ませんでしたが、すでにこの分科会からの提言が先月出されています。その冊子は入り口に置かれていますので、興味のある方はぜひ手にとっていただければと思います。

こういった分科会の開催、提言の他にも市民の意向調査を2,000人対象にして行われています。さらには地区別に懇談会を開催しています。そういうものを受けて、長期総合計画審議会という形で審議を進めている段階になってきております。

今後、この審議を経て議会で議決して、計画としてはそれで一通り完成して、実際にそれを実践していきます。どのように総合計画が出来上がって実際に実行されていくのかということについては今説明してきたことですが、平成23年から始まる塩竈市の課題というか市が直面している問題があるわけですが、いくつかここに連記をしておきました。これも一つひとつ大きな問題ですので、本来はこの一つひとつについても少し長い時間をかけてお話する事がたくさんありますが、時間の関係で項目のみをあげています。

1つ目は、人口減少社会ということになります。かなり急激に次の10年後に市の人口が減っていきま

す。人口が減少していく事とほぼ同じことかも知れませんが、少子高齢化ということが急激的に次の10年間で進展します。それにうまく適応出来るようなまちづくり、計画が求められています。それは、かつての総合計画より深刻な色々な問題を私たちに投げかけているというふうに考えていただいて結構です。

人口が減少し、少子高齢化が進んでいく10年間の中でどうやって住みやすいまちづくりを進めていったらいいのか。高齢者が増えていくということもありますし、少子化の中でどうやって塩竈のまちの中で子育てをしていったらいいのか、そんな様々な問題があるわけですが、まちづくりというものをどのように進めていったらいいのかというのが2つ目の課題です。

3つ目は、水産関係の産業としてこれまで地域を支えてきた基幹産業というものには色々な課題や問題が投げかけられています。その中で、地域経済の活性化ということをしてどのようにしていったらいいのか。これは、今はしまった問題ではなく、ここ20~30年の非常に重要な問題ですが、今、正念場を迎えていると言っても過言ではないと思います。

塩竈の個性と魅力のあるまちづくりの形勢は避けて通れないと思います。塩竈らしさ、魅力をどのようにして、計画の中に盛り込んでいくのが4つ目の問題です。

5つ目に、地域力の強化というのがここに書いてあります。地域力の強化の意味は沢山の意味があります。1つは行政の人達だけではなくて、市民の一人ひとりが塩竈のまちというものを良くしていくために努力、責任を果たしていく。市民力を育てていくことがこれからは非常に大事だと思います。市とか町の財政だけで色々な事をやっていくのはかなり難しい状況にきていますので、そういう面から見ても市民の力を育てていくとか、伸ばしていくと言う事と、それを行政が色々な意味で支えていく事が必要になってきているということも言えると思います。

そういうことを背景にして、今、審議会の中ではまちづくりを3つの柱を中心に色々な議論を進めています。

3つの柱の1つ目は左上にあります。「子どもから高齢者までが安心して暮らせるまち」をどうやって作っていったらいいのか。その為には先ほども申しましたように、子育ての問題とか、保健医療の問題、更には防災とか防犯をきちんと支えていく為のまちづくり、それが大きな問題となっております。

2つ目は、右の上にあります。海や港、塩竈が培った歴史というものを活かした活力あるまちづくりをどうやって作っていったらよいか。地域産業、観光の問題は大変大事だと思います。それから、塩竈のまちを住みやすくしたり、景観、環境、離島振興の問題にも正面から立ち向かっていく必要があると思います。

3つ目は、「愛着と誇りをもって自ら育むまち」というものを作っていく。その多くのポイントはひとりづくりとか広い意味での教育という問題に関わっていくものと思います。学校教育、生涯教育、一番下のところ、「市民協働の推進」という言葉が書いてありますが、行政に任せるということはなかなか難しくなってきたので、市民自身が出来る事、町内会・自治会でやれる事、NPOなどの団体でやれる事、そういう団体が連携したり協力したり、色々な活動や事業を進めていくということをもっと沢山やる、ということが出てくると思います。

ここに出しているのは審議中の事であって決定していることではありません。色々な議論を審議会の中で進めていかなくはなりませんし、市民の皆さんから意見を伺いながら具体的な総合計画の中身を変えていく最中です。ぜひ、今日この後も皆さん方から色々な形での意見をいただきながらしっかりとした総合計画を作っていきたいと思っています。以上が審議をしている過程です。

それでは、この後はパネリストの皆さん方から具体的な審議をしていただきながら、まちづくりをどのように進めていったら良いかなど話し合っていきたいと思います。

塩竈の中にある色々な資源というものをうまく活かしながら、市民の皆さんの“市民力”とか“地域力”というものを育て活かしていく。その“地域資源”というものが総合計画のキーワードとなっていますし、今日のパネルディスカッションのテーマでもあります。そのような視点から話をさせていただきます。

最初に、宮原先生からですが、先生は観光が専門ですので、塩竈を“観光・交流”という視点から捉えてどのようなことが見えてくるのかということについて少しお話をさせていただきたいと思っています。手元のピンクの冊子の中に、今日話をさせていただく内容のアウトラインが描かれておりますので、それもご覧になりながら話を聞いていただくと良いかと思っています。

(パネリスト 宮原育子)

資料に沿って話をさせていただきます。

これからの長期総合計画、生き方を考えていただいた時に、あちこちの大きな課題としては、これからは人が少なくなっていくということではないでしょうか。これは何も塩竈に限った事ではなくて、他の大きな市、仙台市でも大きな課題の1つになっていくと思います。今日はそういった人口が少なくなってしまうということと、観光について話をしていきたいと思っています。

箱の左上に数字をふっていますので、その順に話をします。

最初に、人口が少なくなってくるということは、定住人口が少なくなってくるのが地域の経済にとって非常に大きな問題になってくるということで、塩竈でもこの問題を避けて通れない。ここにいつも住んでいる人たちが少なくなってきた時にどうしたらいいかという一方で、このまちにやって来て下さる方をいかに増やしてくるかということももう1つ大きな課題になってくると思います。

よそから来た方には「観光客」という言葉があります。観光客だけではなくて、塩竈にやってくる方というのは色々な方がいます。それを全部括って観光客も含めて“交流人口”という言い方をしております。定住している人口に対して、よそから色々な目的でその地域を訪れて下さる方を“交流人口”と言っています。これからのまちづくりの中で課題となっているのは、どこの地域でも定住している人が少なくなるのであれば、どうやってこの地域に滞在して、色々な形で経済的なものを落とすという人を増やそうかということも両方で考えていかなければならないわけです。ここに書いてありますが、“交流人口”は観光客の他、通勤、通学で来ている人、食事をしに来ている人、イベント参加や研修会、勉強会で来ている人など、色々な理由で沢山塩竈に来ている人がいます。この人たちを観光客と区別するというのではなくて、その人たちも買い物をしたり、食事したり、市の中で消費活動をされているわけです。

それから、もっと別の観光地だけではなくて、今日のテーマにもありますが、いろいろな地域資源に関して関心を持つ可能性がある人たちがたくさんいると思います。そういう人たちをいかに塩竈に呼び込んでくるか。

最近の観光傾向としまして、たんに観光地を巡るということから、個人で地域の魅力を発見したい、新しいものと出会って何か学びたい、という人が増えてきています。観光ビジネスもいかに地域の新しい魅力を提供するかが課題となってきています。

例えば、「ニューツーリズム」という言葉が出てきていますが、今まで観光の対象でなかったものが、暮らしの様子、農村、工場見学など通常ではない何か発見と学びを伴う観光を掘り起こして行きましょう

という流れが強くなってきております。そういった観光の流れが変わってくるということは、塩竈も次の10年といった時に、鹽竈神社やマリングートの海の辺りだけではなく、もっと塩竈の違う所をまわりたいという人も出てくると思います。そういった時に皆さん方がそういう人たちのニーズに応えられるような準備が出来るかということで、観光の旅行会社の方たちだけではなく、市民の方たちがこの地域の色々な資源を掘り起こしながら、地域を主体としてやってきた人と、地域の皆さんとの関係の中で、塩竈に来る人達を増やしていくプログラムが必要だと思えます。

今までの観光、特に松島でもそうですが、たくさんの方がひっきりなしに来てお金を落としてくれるということは昔の観光ではすごくいいことでしたが、今はそんなにたくさんの方が来ることもないし、松島でも宿泊はしない、通過型の観光が長年この地域で主流になってきています。そういった方たちが訪れても、地域の方たちが“お客さんがやって来て良かった”と思うような活動になるかどうかというのは別の話だと思えます。

これからはなるべく“地域をすばらしい”と思って下さる方、何度でも足を運びたいと思っている方たちの掘り起こしが重要だと思えます。塩竈のファンを作る整備が出来ているかどうか、もう一度見ていただきたいと思っております。

鳴子で、まちづくりをしようとした時に気が付いたことは、“町中を歩こう”という観光を始めました。ところが、標識が歩いている人の目線になく、電信柱の高い所にあります。それは、皆さんがバスで観光に来るので、バスの運転手さんの目線に合わせているからです。ほんの小さな事でも観光のあり方が変わると皆さんが用意すべき事が変わることなのです。そういう目線でいろいろ地域を考えていかなければならないことがこれからの課題だと思えます。それで3番目には斎藤先生もおりますので、具体的な話は斎藤先生からいただきますが、本当に大切なことは、皆さんの地域の宝を掘り起こしてそれを使っていくという事、これが新しい観光の中でも重要になってきます。

皆さんにお願いしたいのは、観光客だけが塩竈にとって大切だということではなく、塩竈を訪れて下さる方に対する皆さんの目線をぜひ持っていただきたいということで、資料の4番目に書いてありますが、仙台市でも“ビジターズ産業ネットワーク”というものを市民と一緒に作り上げております。ビジターズ産業というのは“交流人口”を増やすための色々な工夫を市民でやりましょうということで、例えばイベントをしたり新しい観光ルートを市民で作ったりということをやっております。それは観光だけではなく交流ということで皆さんたちの力が発揮できるのではないかと考えています。

坂道、標高差で立体的なまちに皆さんお住まいですが、そういったものを逆手にとって塩竈は面白いぞと引きつける。ビジターズ産業を興して、市民がタウンセールスをして“交流人口”を増やしていくことを皆が一丸となってやっていくということがこれから10年の作業として必要ではないかと思えます。

(パネリスト 斎藤善之)

宮原先生の“交流人口”の話は私も同感です。私自信仙台市に住んで居ますが塩竈に交流しています。なぜ塩竈に来るのかというと、私の専門の歴史がここにあります。

“交流人口”というのは非常に流動的でもあります。自分が関心のあることに赴く選択権があり、面白ければどんどん来る。しかし、そうでなければ来ません。土地同士、地域同士が魅力を発掘して訪れられるようなまちになっていかないと、忘れ去られてしまう。今は自分の魅力をアピールし発信していかないと選ばれなくなるという問題が出てきます。

塩竈は魅力ある素材を持っているまちで、それをうまく活かし活用できれば、土地環境として非常に魅力的なまちになると思えます。伝統的にも色々な人を呼び込める力を持っている地域だと思っております。

ただ現状からいいますと、よその私から見て、なぜ地元の人をもっと活用しないのかなと思います。取り組みの一つとして、資料をご覧ください。「NPOみなとしほがま」は、平成15年に地元の方が中心になって設立されたボランティアの皆さんたちのNPOです。これまで地元で見過ごされてきたものを掘り起こしながら活用していきましょうという取り組みをやらせていただきました。6～7年やってきた中で塩竈は文化遺産がたくさんあるが、それがそのまま放置されているものが多い感じがしました。

大滝先生も言われていることですが、資源はそこにあっただけでは資源になりません。掘り起こして活用できる形にすることです。塩竈には沢山いいものがあるが、それがどういったものかわからないまま放置されているので、活用できるものは活用していく。これならどこへ出しても恥ずかしくないといえるような塩竈の文化遺産は何なのか代表的なものを取り上げたのが書いてあります。塩竈古道もあり、お釜神社も面白いです。寒風沢港、貞山堀もあります。塩竈と仙台を結んだ魚の道の道も意外と面白い存在です。こういったものを取り上げていくということが、関心を持ってもらえる。近代では亀井邸、丹六園、太田屋などの伝統的な建築物、などこれから発掘できるものが沢山あると思っています。学術的に見ると全国にいつ出してもおかしくない、非常に立派な遺産であると私は思います。このような本物をきちんと出していくというのが大事です。市民の皆さんと一緒にこれからも発掘していくということが、塩竈の魅力を高めることになります。

(パネリスト 三浦辰也)

今日は頑張っている市民の一人としてお話をさせていただきます。

実際に商工会議所が中心となって、地域資源を使った新しい商品を開発しました。地域資源を活かした商品の写真が資料に載っていますのでご覧ください。

先日、高知県のゆずで有名な村に行ってきました。人口千人足らずの村ですが、ゆずを使った商品「ジュース」や「ボン酢」などで年間31億円の売り上げがあります。

塩竈といったら「塩」です。藻塩も商工会議所の地域活性プロジェクトで作っています。昨年4月10日に塩竈のかまどを使い、古代の製法で作った藻塩がすごく好評で、これを使って事業所が商品開発しました。「生キャラメル」塩と海藻を使った「のりのりブッセ」や「えび塩かりんとう」などがあります。

さらに、昨年度からやっている事業ですが、日本酒や海産物を使った商品を開発しています。酒粕を使用した「ジェラート」は東京の展示会で準グランプリに選ばれました。鮫の軟骨を使ったコラーゲンたっぷりの「塩竈さらら」、マンボウの皮を使った「塩竈こはく」、「藻なかさぶね」、「かつおキーマカレー」、「藻華レーヌ」など、これらは入り口に展示されていますので宜しくお願ひします。皆さんもご存知の「藻塩弁当」ですが、最近JRの駅の中や新幹線の中の車内販売にあります。5月号のタウンページに載りました。7月から第2弾が出ます。

(パネリスト 宮原育子)

市民の人たち一人ひとりが何をすればいいのか。

あまり堅苦しく考えないで、1つはよその人に親切にして欲しいということと、塩竈を自慢していただきたいのです。自慢するということは何かというと自分のまちの強み、良さを皆さん自身が認識しているということですね。何もわからなければ自慢できない。今日、三浦さんが紹介した塩を使った商品が色々あります。市民の皆さん自身がこういったものを購入して使用する。お客さんが来たときはお茶請けにし

て説明するといったことや年末の贈り物にするなどPRしていく事が大事です。

発掘するまではいいのですが、それが使われないと命が宿らない、これはいいものだとはどんどん進めていけば観光や交流の力になります。観光の場所だけでなく日常的に使い、人に紹介していくことがこれからやっていただきたい事です。

それから、もう1つは斎藤先生が塩竈の素晴らしい歴史の資産の話をしていただきましたが、ではこの素晴らしい場所に行くためには、よそから来た人たちは、どういう風にそこに辿り着くのでしょうか。そこに行き着くまでの案内表示はあるのでしょうか。車で来た時に簡単に止められる場所はあるのでしょうか。人を迎える体制を皆さんがどう考えているのか。

“宮城蔵王36景”という取り組みをしています。蔵王が素晴らしく見える36箇所を市民から公募して観光マップを作りました。その時にやった作業は何かというと、“選んだ時に車が止められるか”、“トイレが作られる場所があるか”、という所を厳選して36地点選びました。

私が塩竈に来たとき車を止めたいと思ってもどこに止めたらいいのかわからない。素晴らしい店があるのに駐車場がないので通り過ぎてしまう。もしかすると、そうやって塩竈はお客様を逃しているかもしれません。先ほど言った標識ですが、塩竈は全然分かりません。観光地に辿り着けません。市役所にも辿り着けません。塩竈は道が複雑で辿り着けない所がある。そういうことの一つひとつを整備していくということも大切だと思います。駐車場の情報、食事する所の情報が私たちには分からない。その情報を皆さんから集めて、市民が考えて作ったマップが必要だと思います。

(パネリスト 斎藤善之)

史跡や文化遺産の前に看板を作ったらいかがでしょうか。

整備していくことにより、そこにある資産がただあるだけではなく活用されていくので、情報発信が必要。塩竈の魅力は何か。鹽竈神社も大きな魅力ですが、港町らしさを出していくことも必要。日本で有名な港町は横浜や神戸ですが、行くと色々、港まちらしさが演出されている。横浜では大きな帆船「日本丸」があり、やはり港には船が欲しいです。船があるだけでここは港だと思います。

ウォーターフロントも塩竈の場合は年代によって変わってきています。中世まで遡ると、古い家がそのまま自然な港として使われていた時代があった。宮原先生が言っていた複雑な道というのは、港の入り江の複雑さが残っている為なのです。ということはそれをうまくルートにする。案内整備をする。地図を作るという作業が必要。複雑なまちにこういう歴史があってこうなっているんだ。逆に複雑だから変えようということではなく、複雑さを魅力に変えてしまう。そして、複雑な所もあっていいのではないかと思います。塩竈にも見どころがあるのでそういうポイントを示す必要があります。

もう1つは、塩竈らしい船が必要だと思います。どこに出しても恥ずかしくない塩竈の代表的な船は何かというと、江戸時代に塩竈から松島に向かって出ている手漕ぎの10人ぐらい乗れる遊覧船が塩竈に30船ありました。それを皆さんでお金を集めて復元するとイメージが深まると思います。それから歴史遺産を根拠のない針小棒大に扱うことなく、安易に取り組まないようにしてほしいと思います。

(パネリスト 三浦辰也)

こういった商品を作るのはすぐ出来るのですが、どうやって販売していくか、どうやって広めていくかが重要です。

見ればただのクッキーですが、いろいろ物語があると食べたくなりますよね。昔ながらの製法で作った酒の酒粕で作った。無農薬ササニシキ 100%使っているといえば反応する人が多いと思います。それでインターネットで販売しようと思っていますが、どう魅力をアピールしていくか、物語を作っていくかがポイントだと思います。

集客して販売していくそこがもっとも重要なことですが、まだまだ我々の作った商品は世の中に全然広まっていませんので、それをいかにして広げていくかということなのです。JR関連会社の日本エンタープライズさんと提携して、新幹線の中で車内販売をしていくとか、いろいろなメディアに取り上げてもらうようにプレスリリースしていくことが重要になると思います。私が専門でやっているのはインターネットですが、インターネットですべてうまくいくわけではないので、1つの入り口として、インターネットを使いつつ、色々なメディアを使って商品をPRしていく。そして何よりも口コミが重要です。ですから皆さんに口コミをしていただくのが重要かと思っています。

塩竈といったら塩なので、塩を使ったまちおこしをしたらいいのではないかとということで「顔晴れ塩竈」でも活動しています。藻塩を使ったラーメンは現在1店舗しかありませんが、それを広めて行こうという運動をしています。単に商品だけをPRするのではなくて観光に来てもらうような仕掛けをしたら面白いのではないかと考えています。

・質問、意見

(コーディネーター 大滝精一)

残り10分ありますので、皆さんからの質問、意見をお願いいたします。

(来場者)

塩竈神社の境内で地場産品を販売したら良いのではないのでしょうか。

(パネリスト 宮原育子)

とてもいい意見だと思います。いかに塩竈に人を止めておくか、滞留時間と言っていますが、松島の滞留時間は2時間弱になりつつあります。本当に地域の良さを見られているかどうか疑問です。

市の中に色々な立ち寄り所があり、そこからどう地域につなげるかというのは、観光客が作るのではなくて、皆さんたちが作っていくことが重要で、そのためには色々な方たちが参加する。話し合いを持つ必要がある。それが実現したら楽しいのではないのでしょうか。

(来場者)

要望です。

先ほど紹介していただいた製品を塩竈の各店舗に置いていただきたいです。ふくし分科会の協働ということについて、協働で大事なものを私は3つ踏まえています。1つ目は行政と市民の役割の分担。2つ目は「情報の共有化、」3つ目は「反省」です。三番目が一番大事だと思います。

(コーディネーター 大滝精一)

総合計画の議論の中でもやっております。

先ほどから言っている“市民力を育てていく”とか、“市民協働を推進していく”ということをやっていますが、では具体的に何をやるのかという問題です。

今の話の出た3つ目の問題で大事なことは、市民と行政との間で何か協力しあって事業をやった時に、やった事に対して評価をするといったようなこと、そういうことが非常に大事だと思います。ただ一緒に評価をするといっても評価をしたことがないので、まずお互い自分たち同士で評価をしあってその結果を持ち寄って、ずれているところは何か、足りないところは何かというようなことを市民協働の中に入れなければならないと思っています。総合計画の中でもぜひそういうことを盛り込んでいくというおとによって、やったことを反省して次のステップにすすんでいくというのが、総合計画の中で大事になっていきます。行政だけでも出来ないし、市民だけがいくら頑張ってもできないので手を組んでやっていくというのが必要なのでそういう方向に総合計画の中身を変えていきたいと思っています。

塩竈だけで頑張るのではなく、多賀状、松島、仙台など他の市町村と連帯してやっていく必要があると思います。

審議会の中ではそういう議論もたくさん出ています。当面は塩竈市の長期計画ですが、塩竈市の中で自分たちのことを考え自分達だけで良くなると言うのはだめなので、結局そういう意味では人々の繋がりから点から見ても塩竈だけではなく、人の持っているネットワークをうまく使ってやっていく。連携を活かしたものについては審議会の中でもかなり議論されているのでぜひその点は期待してください。

時間になりましたので今日のパネルディスカッションは終わりにしたいと思います。

今日は時間の制約がありましたので、主に地域資源を使って、観光・歴史・商品づくりをお話ししましたが、今やっている総合計画では幅広くカバーしています。これまで3次、4次という形で長期総合計画が作られてきましたが、そこで実行できなかったものがたくさんあります。今度は、策定する以上は、どこまで何をやるかというのをしっかりとやらなければいけないと思っています。あれもこれもやることは今の時代ではできません。どこに重点を置いて「ここまでは必ずやります」というのを市民の皆さんと約束をした上でないと、実行力のない計画を作っても意味が無くなります。せっかく時間とお金をかけてやるのですからそういう意味で成果もあり実行力のある計画にしていきたいと思っていますので、皆さんからも意見をいただければと思っています。

5. 閉 会